

4 政策の体系の実施状況

この章では、京プラン 2025 に掲げた 27 分野の「政策の体系」ごとに、以下のとおり、政策評価結果を活用し、当該政策分野の進捗状況を記載しています。

<本章の見方>

政策分野の番号と名称

京プラン 2025 から転載しています。

【令和5年度】

1

環境

<政策分野の基本方針>

政策分野の基本方針

京プラン 2025 から転載しています。

豊かな地球環境を未来へ引き継ぐために、地球温暖化対策、生物多様性保全、ごみ減量等の課題に対し市、行政等のオール京都で、これまでの延長にとどまらない取組を実践し、2050年まで「正味ゼロ」等の目標達成に向け、さまざまな政策分野において、自然との共生を楽しむ社会の実現をめざす。

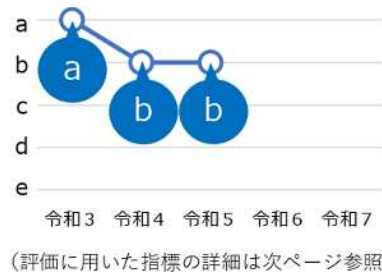
客観指標評価

市民生活実感評価

政策の客観指標総合評価

政策及び施策の客観指標評価結果に基づく総合評価結果と、それに関する分析を記載

政策の客観指標である「温室効果ガス排出量削減」に産業部門及び業務部門の削減が着実に減少しており、



(評価に用いた指標の詳細は次ページ参照)

市民生活実感調査の総合評価

京プラン 2025 に掲げた「みんなでめざす 2025 年の姿」に対して、今の市民生活がどうなっているかを尋ねた調査（市民生活実感調査）に基づく総合評価結果と、それに関する分析を記載



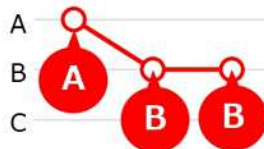
(評価に用いた設問の詳細は次ページ参照)

評価の重み付け

客観指標評価と市民生活実感評価のいずれを重視するかを記載

<評価の重み付け>
2050年までの目標達成を目指し、指標の数値が直結する。

政策の総合評価



政策の総合評価

政策の客観指標総合評価と市民生活実感調査総合評価を踏まえた全体の総合評価結果及びそれを踏まえた今後の方向性を記載

客観指標評価がb評価となり、市民生活実感評価がc評価となったことから、総合評価結果はB評価となった。温室効果ガス排出量については、京都市地球温暖化対策計画に基づき、ライフスタイル、ビジネス、エネルギー、モビリティの4つの分野の転換や、森林・農地等の二酸化炭素の吸収源対策の強化等を図ることで、

※政策の客観指標評価のうち、評価欄が「-」になっているものは、新型コロナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったものや、客観指標や目標値の見直しを行ったもの等である。
※政策及び施策の客観指標評価の詳細は、京都市情報館の「政策評価結果（令和５年度）」のページを参照。

【令和5年度】

客観指標評価							
政策の客観指標名（単位）		直近年度 の実績値	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	温室効果ガス排出量削減率（％）	22.3	-	d	c	-	-
2	ごみ焼却量の削減量（万トン）	3.9	a	a	a	-	-
3	-	-	-	-	-	-	-

面の詳細

観指標名、直近の実績値及び評価結果、並びに政策の客観
均、下位施策の客観指標評価平均、総合評価結果を記載

ナウイルス感染症の影響等により評価ができなかったもの
標や目標値の見直しを行ったものについては、評価欄に
しています。

政策の客観指標 総合評価（①：②＝1：0.5）	a	b	b	-	-
-------------------------	---	---	---	---	---

市民生活実感評価						
市民生活実感調査設問		令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
1	環境に配慮した行動を実践する社会になってきている。	b	c	c	-	-
2	様々な生き物が生息する良好な自然環境が保たれている。	b	c	c	-	-
3	マイバッグの利用やごみの分別・リサイクルの徹底など、ごみの出ないくらしと事業活動が広がっている。	b	b	b	-	-
4	暮らしの中で、環境について学び、実践する人が世代を問わず増えてきている。	c	c	c	-	-
5	-	-	-	-	-	-
感評価の詳細 実感調査の設 、並びに総合 記載		-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
		-	-	-	-	-
政策の市民生活実感調査 総合評価		b	c	c	-	-

政策の重要度（27政策における市民の重要度）	令和3	令和4	令和5	令和6	令和7
	6	5	6	-	-

政策の重要度
27政策のそれぞれについて、市民が考える重要度について尋ねた調査結果を記載